

和歌山県森林・林業総合推進計画

～紀州林業の更なる躍進～



2026(令和8)年4月

和歌山県 農林水産部 森林林業局

目 次

第1章 基本事項	2
1. 森林・林業総合推進計画について	2
2. 対象期間	3
3. 主な目標値	3
4. 進捗管理等	3
5. 森林ゾーニング	3
第2章 具体的な取組	5
1. 循環型林業の実践	5
2. 林業の労働環境向上	7
3. 紀州材の利用拡大	9
4. 多様で豊かな森林づくり	11

第1章 基本事項

1. 森林・林業総合推進計画について

本県民有林における人工林は主伐期を超えるものが約9割を占め、利用期を迎えています。また、2050年カーボンニュートラル^{※1}を目指す取組が加速化しており、これまで以上に森林整備や建築物の木造化・木質化、森林クレジットの活用などへの期待も高まっており、林業において絶好の機会であるといえます。

こうした状況の中、2025年に本県では、2026(令和8)年度を始期とする、「和歌山県総合計画」を策定しました。当該計画においては、「長期構想」で2040年に本県の目指す姿を定めるとともに、構想を実現するために必要な2026年度から2030年度までに主に実施する施策を「実施計画(アクションプラン)」にて定めています。

「実施計画(アクションプラン)」の森林・林業分野においては、林業産出額(木材生産)を指標とし、2025年3月に策定した「和歌山県林道整備計画」に基づき、林道の整備を進めることで更なる素材生産量の増大を図り、循環型林業の実践、林業の労働環境向上、紀州材の利用拡大、森林クレジット発行の促進、多様で豊かな森林づくり、をそれぞれ進めることとしています。

そこで、「和歌山県総合計画(実施計画)」を実現・達成するために、より具体的な取組内容を明らかにした、「和歌山県森林・林業総合推進計画」を策定しました。

今後、総合推進計画に基づき、紀州林業の更なる躍進と森林の保全を進めてまいります。

※1 2050年までに温室効果ガスの排出が全体としてゼロ(カーボンニュートラル)になることを目指すこと

2. 対象期間

2026(令和8)年度～2030(令和12)年度の5年

3. 主な目標値

(現状値)

- ・林業産出額(木材生産): 34億1千万円〔2030(令和12)年〕 22億9千万円〔2022(令和4)年〕
- ・素材生産量^{※1}: 39万3千m³〔2030(令和12)年〕 30万m³〔2024(令和6)年〕

4. 進捗管理等

第2章に掲げる項目ごとに目標を定め、これに関連する実績を随時まとめ、その結果を施策に適切に反映していくことや、研修などを通じて最新の技術や情報をいち早く関係者にお伝えすることにより、目標の着実な実現につなげていきます。

5. 森林ゾーニング

森林ゾーニングは、県内の森林を「経済林」と「環境林」に区分し、「経済林」の中でも特に素材生産に有利な条件の場所を「重点エリア」として位置づけています。

今回、前回のゾーニング後に実施した航空レーザ解析や地位情報の見直し結果及び現在の基盤整備状況等を踏まえ、改めて森林ゾーニングを行いました。

区分されたゾーニングに基づき、経済林において、生産性向上に向けた施策を集中的に推進します。特に重点エリアにおいては、「伐って、使って、植えて、育てる」循環型林業を推進します。また、環境林においては、森林の多面的機能が十分に発揮できるような取組を進めます。

森林ゾーニング別施策の区分因子と基本方針

区 分	面 積	区 分 因 子	基 本 方 針
経 済 林	173 千 ha	・人工林率が高く、林地生産力(地位)が高い箇所 ^{※2} ・林道(既設及び和歌山県林道整備計画搭載路線)からの距離が500m以内	スギ、ヒノキ人工林が充実しており、林道からの距離が近いことから森林資源の有効活用を推進
うち 重点エリア	112 千 ha	林地生産力(地位)が高い箇所のうち、 ・林道(既設及び和歌山県林道整備計画搭載路線)からの距離が500m以内 ・500m以上であっても施業履歴がある箇所	林地生産力が高く、将来にわたり高い収益性が期待できるため、「伐って、使って、植えて、育てる」循環型林業を推進
環 境 林	171 千 ha	経済林以外の森林	森林の多面的機能の維持増進を図る
合 計	344 千 ha	※区分毎の面積は上記因子により区分されたメッシュ(300m×400m=12ha)を集計したもの	

※1 素材とは、伐採したスギやヒノキなどを運びやすいよう切り揃えたもので、この戦略では加工事業者に渡るまでの丸太を指す。原木ともいう

※2 林地生産力(地位)が高い箇所とは、1メッシュの平均地位が1～3の箇所を指す。

第2章 具体的な取組

1. 循環型林業の実践

(1) 循環型林業の推進

① 林道や作業道等の整備及びスマート林業の推進等

- 木材生産コスト低減と森林整備促進を図るため、和歌山県林道整備計画に基づき林道整備を加速化させるとともに、木材の大量輸送を推進するため、大型車両が安全に走行できるよう、既設林道等の改築・改良を進めます。
- 原木の現地選別を推進し運搬コストの低減を図るため、森林作業道や山土場の整備を促進します。
- 林道や森林作業道などの路網設計の効率化・省力化のため、航空レーザ計測で得られた詳細な地形データ等を活かして、効率的な線形を自動設計する路網設計支援ソフトの導入を促進するとともに、林道技術者の育成を図ります。
- 生産性の向上、労働強度の低減及び労働安全性の確保のため、油圧式集材機や架線式グラップルをはじめとする高性能林業機械の導入や、丸太材積自動計測器やGNSS測位機器などのICT機器の導入を促進します。
- 苗木や資材の運搬効率の向上を図るため、ドローンや遠隔式荷外し器などの導入を促進します。
- 和歌山県森林クラウドシステムを用いて、樹高や胸高直径など立木の情報や、原木需要情報などの共有を推進し、川上と川中の連携強化を促進します。



林道の整備



森林作業道の整備



油圧式集材機



架線式グラップル



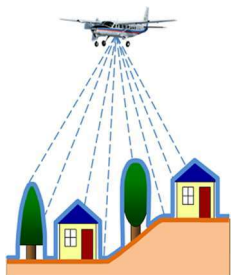
高性能林業機械



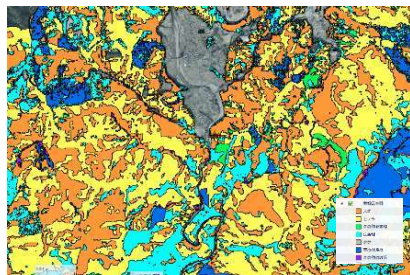
林業用資材運搬ドローン

②森林クレジットの取得促進

- 県内森林において、高精度な航空レーザ計測（4点以上／m²）を実施するとともに、計測データ等を用いて森林資源解析を行い、森林調査の効率化を図ります。
- 森林クレジットの制度や発行手順等に関する普及研修を実施します。



航空レーザ測量（イメージ図）



林相区分図



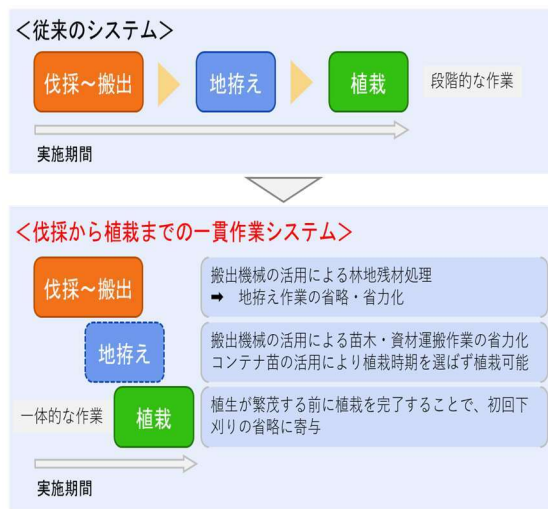
普及研修会

③伐採から植栽までの一貫作業システムの普及及び花粉症対策苗木の増産

- 再造林費用の縮減を図るため、伐採と植栽を一体的に行う「伐採から植栽までの一貫作業システム」のさらなる普及を図ります。
- 下刈り費用の縮減を図るため、花粉が少なく、成長の早い苗木の生産拡大を図ります。



スギ閉鎖型採種園



一貫作業システムのイメージ

④獣害対策

- ニホンジカ等による植栽木の被害を防止するため、獣害防護施設の設置に対する支援を行うとともに、ドローン等を用いた施設の点検などを促進します。

	指標	現状値	目標値 (2030年度)
目 標	林業産出額（木材生産）	229 千万円 (2022 年次)	341 千万円
	素材生産量	300 千 m ³ /年 (2024 年次)	393 千 m ³ /年
	林道整備延長（和歌山県林道整備計画搭載路線）	— (2024 年次)	33km
	森林クレジットのプロジェクト登録事業体数	2 事業体 (2024 年度)	10 事業体
	花粉症対策苗木生産本数	85 千本 (2024 年度)	452 千本

2. 林業の労働環境向上

(1) 安全・安心な労働環境の整備

①労働安全管理能力を有する事業体の育成

- 労働強度の低減や安全性の向上を図るため、スマート林業機器や遠隔操作式林業機械等の活用を推進します。
- 労働災害発生時など緊急時の連絡手段として、衛星ブロードバンドインターネット技術等を活用した山間部における安定的な通信環境の整備を促進します。
- 「新規就業者やその指導者などの人材の育成」や「就業環境や労務管理の改善」などの取組を実施する林業事業体等を支援します。
- 現場作業員が安全に作業できる組織作りや労働安全に対する意識を向上させるための研修会等を開催します。

(2) 林業従事者の確保・育成

①新規就業者の確保

- 都市部等における「わかやま林業体感セミナー」の開催や SNS 等による情報発信により、紀州林業の魅力を PR することで林業就業希望者の掘り起こしを行います。
- わかやま林業労働力確保支援センター、わかやま移住定住支援センター、市町村と連携し、就業希望者からのしごと・住まい・暮らしに関する相談に対応した「わかやま林業就業相談会」を開催します。
- 常に林業事業体の求人情報を公開し、就業希望者とのマッチングを図るため、わかやま林業労働力確保支援センターによる「林業の無料職業紹介」の実施を促進します。
- 県内高等学校にて森林・林業に関する座学や実習などを実施するとともに、より関心の高い高校生を対象にチェーンソー資格取得など、林業の仕事を体験する講座を実施します。
- 外国人政策の方向性や林業事業体のニーズを踏まえ、外国人材の受入に向け、関係機関と連携を図るとともに、職場環境の整備を促進します。



わかやま林業体感セミナー



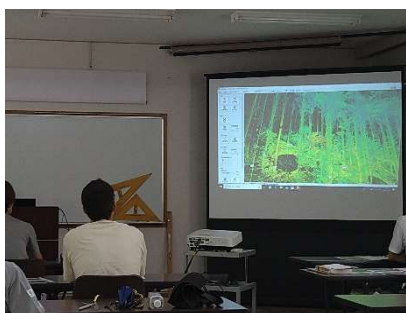
就業相談会



高校生向け林業講座

②和歌山県農林大学校林業研修部などでの人材育成

- 技術と幅広い知識を習得し、将来的に地域林業のリーダーとして活躍できる人材を育成します。
- 森林 3 次元計測システムなどのICT機器や、大型ドローン、架線式グラップルなどの先端機械による研修を実施し、効率的で安全な技術を習得した林業を担える人材を育成します。
- 熟練作業員や中堅作業員に対し、高度かつ安全な伐木・集材技術や若手従事者への指導スキルなどが習得できるよう技術力向上研修を実施します。



森林調査実習



林業架線技術者育成研修



高度伐木技術者育成研修

(3) 林業従事者の所得向上

①林業事業者の生産販売体制の強化

- 伐採、造林作業における林業事業者同士の共同施業や加工事業者への直送販売など、水平連携・垂直連携による協業を促進します。

②林業事業者の雇用管理の強化と経営力向上

- 経営に関する知識と経営スキルの習得を図り、経営マネジメント能力の向上に資する取組を促進します。
- 林業就業者がキャリアアップして、働く意欲を高めるとともに誇りを持って仕事に取り組むことが出来るよう、働きやすい職場づくりやキャリアに応じた処遇等を促進します。

③安定した副収入確保の推進

- JAなどと連携し、特用林産物（キノコ、サカキなど）等の生産や販売を促進します。
- 地域の抱える課題対応などについて、市町村と連携し林業従事者の技術活用を図るなど、安定した収入を確保し定住を促進します。

	指標	現状値	目標値 (2030年度)
目 標	林業就業者数	631人 (2024年次)	730人
	新規就業者数	51人/年 (2024年次)	63人/年
	林業就業者平均所得(年間)	368万円 (2024年次)	450万円

3. 紀州材の利用拡大

(1) 加工・販売体制の強化

①加工体制の強化

- 生産性の向上を図るため、製材工場の新規設備の導入や既存設備の高度化を促進します。
- 木材製品の多様化を促進するため、集成材工場等の県内立地を進めます。



新規設備の導入



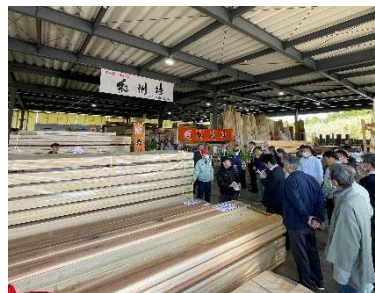
既存設備の高度化

②販売体制の強化

- 大消費地における大規模展示会への出展により紀州材の魅力をPRするとともに、都市部の建築関係者を対象にした産地見学会の開催や製品記念市である紀州材展への出展支援などにより紀州材の販売を促進します。
- 横架材をはじめとする構造材について、紀州材の強度評価（紀州材が強いことを数値化）を用いて、工務店、木材流通業者やプレカット工場等への販売を促進します。
- 供給力の強化を図るため、製材工場の連携を促進します。
- 紀州材の需要拡大を図るため、海外輸出に向けた木材ニーズ調査や輸出トライアルを実施します。



大規模展示会への出展



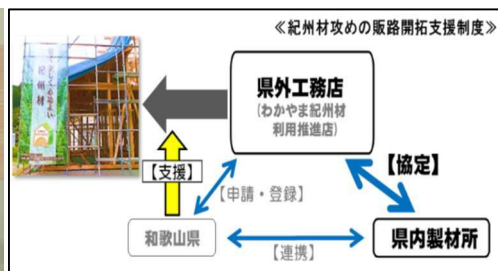
紀州材展の開催



都市部建築関係者との商談会
(産地見学会の開催)



横架材の強度評価



県外工務店との連携



輸出向け木材 (林野庁 HP より)

(2) 木材利用の拡大

① 公共建築物や民間非住宅建築物の木造化・木質化の推進

- 県木材利用方針に基づき、率先して公共建築物における木材利用を進めます。
- 市町村が整備する公共建築物の木材利用を進めるため、設計相談窓口の設置や木造設計アドバイザーの派遣による技術的支援や、関係団体と連携した木材利用推進キャラバン活動等の普及啓発を実施します。
- 企業等との建築物木材利用促進協定の締結を進めるとともに、非住宅建築物の木材利用を支援します。
- 市町村の営繕担当者や建築士などを対象とした木造設計に関する研修会を実施します。
- 木の街づくりを進めるため、木材利用による環境貢献や炭素固定効果の見える化を推進します。



公共建築物の木造化



民間施設の木質化



建築士向けの研修会

② 公共土木工事における木材利用の推進

- 公共土木工事における木材利用推進指針に基づき、紀州材を活用した建設資材等の利用拡大を推進します。



丸太筋工



木製残存型枠



木製ガードレール

③ 新たな価値の創出

- 改質リグニンなど木質系新素材に関する国研究機関や民間企業の研究成果を情報収集し、県内企業に発信します。



改質リグニン
(農林水産省 HP より)



改質リグニンを利用した製品
(農林水産省 HP より)

目 標	指 標	現 状 値	目 標 値 (2030 年度)
	国産材製材品出荷量	80 千 m ³ /年 (2024 年次)	110 千 m ³ /年

4. 多様で豊かな森林づくり

(1) 森林の持つ公益的機能の維持増進

①生育が悪く、経営的に不利な人工林の針広混交林化及び広葉樹林化

- 森林の持つ水源かん養機能や生物多様性保全機能などの高度発揮を図るため、尾根筋や痩せ地などの場所では、針広混交林化や広葉樹林化を推進します。



針広混交林化のイメージ



人工林の広葉樹林化のイメージ

②市町村による私有人工林の整備促進

- 市町村が森林経営管理制度や森林環境譲与税を活用し、私有人工林の整備を効率的に図れるよう、市町村職員を対象とした実務研修を開催するとともに、業務に関する助言などの支援を行います。
- 高精度な航空レーザーデータの解析により整備した森林資源情報等を、和歌山県森林クラウドシステムなどを用いて市町村と共有するなど、市町村の取組を支援します。



私有人工林の整備(イメージ)



研修状況

③違法な伐採の監視強化

- 森林を適切に管理するため、これまでの巡視活動に加え、衛星データの活用など新たな技術の導入を図り、伐採の監視を強化します。

④生物多様性に富んだ天然林等の保全

- 貴重な自然生態系を持つ森林や海岸松林などにおいて、病虫害のまん延防止を実施するなど、その保全を推進します。

(2) 森林と経済活動、社会活動の相乗効果の実現

①「企業の森」の推進

➢ 伐採後、更新が進まない森林や間伐等の整備が遅れた森林を保全するため、企業・団体がサステナビリティ活動（持続可能な社会の実現に向けた環境貢献など）の一環として行う植林や間伐などの森林整備を推進します。



企業による森林保全活動の様子

②森林サービス産業の推進

➢ 森林空間を活用した森林セラピーなどの森林サービス産業を推進するために、他地域の事例などを交えた研修会を開催するなど、森林サービス産業の事業化に対して、必要な支援を行います。

(3) 県民一人ひとりの行動変容の促進

①森林環境教育等の推進

- 県内の小学校等が行う、森林が持つ多面的機能や林業の役割を学ぶ屋内学習や森林体験等を支援します。
- 県内の民間団体等が行う、森林での体験活動や学習の場づくり、森林の魅力を伝える取組を支援します。
- 森林環境教育の指導者に対し、指導方法等を学ぶための研修を実施します。



屋内学習



丸太切り体験



民間団体による森林体験

目 標	指標	現状値	目標値 (2030年度)
	人工林の広葉樹林化面積	41ha/年 (2024年度)	400ha(5年間)
	「企業の森」活動箇所数	114箇所 (2024年度)	160箇所

